

132 オウム病

担当	検査チャート
家畜保健衛生所	<pre> graph TD A["(1) 疫学調査"] --> B["(2) 臨床検査"] A -- "(糞便、咽頭・クロアカスワブ)" --> C["(3) 剖検"] B -- "(死亡鶏)" --> C C -- "(各種臓器)" --> D["(4) クラミジア培養試験"] C -- "(各種臓器)" --> E["(5) PCR"] C -- "(各種臓器)" --> F["(6) 病理組織検査"] D -- "(+) (-)" --> G["(+) (-)"] E -- "(+) (-)" --> H["(+) (-)"] F -- "(+) (-)" --> I["(+) (-)"] </pre>
病性鑑定施設	<p>(4) クラミジア培養試験 <発育鶏卵接種試験> <動物接種試験> <培養細胞接種試験></p> <p>(+) (-) (+) (-) (+) (-)</p>
判定・結果	<p>(+) (-) (+) (-) (+) (-)</p>
最終判定	<p>最終判定は、疫学調査、臨床検査の結果を基に、クラミジア培養試験、PCR、病理組織検査の結果により総合的に判断する。</p>
その他	<p>1. 発育鶏卵接種試験、動物接種試験と培養細胞接種試験は同時に実施する。 2. <i>Chlamydia psittaci</i>は感染症法の四種病原体等に指定されており、同法の規制の対象となる。</p>

○ 病原体: *Chlamydia psittaci*

(1) 疫学調査

- ① 世界各地の家さん・野鳥・愛玩鳥で発生しているが、国内における家さんの発生事例は希である。
- ② 国内で飼育される愛玩鳥の約2%から病原体が検出される。
- ③ 接触、吸入、経口による水平感染である。
- ④ 家さんへの伝搬経路は保菌鳥の移入や飛来と考えられる。
- ⑤ 若齢鳥ほど発症率が高いが、鳥種・日齢により不顕性感染から死亡例まで多様である。
- ⑥ 発病期には糞便 1g あたり $10^4 \sim 10^8$ の病原体を排出。不顕性感染鳥や回復鳥も長期にわたり病原体を排出しキャリアーとなりうる。
- ⑦ 人は、感染鳥との接触や排泄物の吸入により感染する。

(2) 臨床検査

- ① 元気消失、食欲減退、羽毛逆立等の一般症状悪化
- ② 鼻腔からの漿液性もしくは化膿性鼻漏
- ③ 緑灰色便、粘液便
- ④ 急性例では無症状のまま死亡

(3) 剖 検

肝臓・脾臓の腫大、灰白色の壊死巣。肺、気嚢、心外膜、肝臓、脾臓の厚肥と線維素性滲出物の析出。

(4) クラミジア培養試験(発育鶏卵接種試験、動物接種試験、培養細胞接種試験)

(発育鶏卵接種試験)

材料: 病鳥の各種臓器、糞便

方法: 4~7日齢の発育鶏卵の卵黄内に接種

成績: 接種3~9日後に胎子死亡

同定: 卵黄囊膜塗抹における基本小体の確認

(動物接種試験)

材料: (発育鶏卵接種試験)の材料と同じ

方法: マウス腹腔内に接種

成績: 5~7日で衰弱~死亡

同定: 肝臓・脾臓における封入体の確認

(培養細胞接種試験)

材料: (発育鶏卵接種試験)の材料と同じ

方法: 培養細胞(L929、HeLa229)に接種

成績: 3~4日後に封入体の確認

(5) P C R

材料: 咽頭・クローカスワブ、各種臓器、糞便

方法: 上記材料より抽出したDNAより nested PCR¹⁾ないしリアルタイムPCR²⁾を行う。

(6) 病理組織検査

肝臓・脾臓の壊死病変。気管支粘膜における炎症性細胞の浸潤。線維素性心外膜炎・腹膜炎。病変臓器における細胞質内封入体。封入体の検出には Macchiavello 染色、ギムザ染色、チオニン染色を行う。

その他:

(抗体検査)

下記理由により、鳥類クラミジア感染症における抗体検査の意義はない。

・愛玩鳥における採血そのものが困難である。

・感染と抗体応答に関する科学的データがない。

・従来用いられてきていた補体結合反応は他種細菌(*Acinetobacter*)との交差が知られており、特異性の点で問題がある。

(参考文献)

1) Chahota, R., et al.: Microbiol. Immunol. 50, 663-678 (2006).

2) Okuda, H., et al.: J. Vet. Med. Sci. 73, 249-254 (2011).